

JAMP information

アカデミアの ほっと一息



～教授室だより～

改めて「研修」って？

市町村アカデミーは1987年に開講し、今年で38年目を迎えます。そこで研修を歴史的観点から見た場合、法令の中に「研修」という文言は約5,200件も存在していることに気づきます。また直近38年間で見てみると、実に約2,800件も増加していることがわかります。これにはサイバーセキュリティなど時代の流れで増加しているものもありますが、地方自治法のほか、裁判所法や話題の政治資金規正法などあらゆる所に「研修」の文言は存在しています。これらは研修の必要性を象徴しているとも言えるのではないのでしょうか、まさにNo Work！ No Kensyu！



研修も変わるのか？

もちろん当アカデミーでも変化はありました。わかりやすいのがOA研修で、これは行政におけるOA化の進展に即応して、トップも含めた研修。その後、Excelの操作など情報政策研修に変化していくといったように時代のニーズにその都度対応していたことがわかるほか、さらに細かく調べると、「記者会見訓練」や住宅展示場に出向く「木造家屋評価実習」など、今思えば若干の違和感を得るものもありました。かといって現在取り組んでいる研修も数十年経てば？と思われるかもしれませんが、いずれも歴とした人材育成上の歴史の一つであることには変わりません。その意味では研修運営の業務を通して歴史の1ページを作れるということはとても素敵なことかもしれません。

また時代が変わり続ける中、研修生の確保はもちろん不可欠です。開講後は市町村合併や緊縮財政、コロナなどあらゆる壁にぶち当たりましたが、今でも全国から研修生が集い、年間約5,000人に受講いただいています。教授としても教えるだけではなく、毎日、様々な地域の研修生と意見を交わすことで、地域における考え方のプロセスや知識、歴史、文化など多くを学ぶことができます。同じ課題であっても地域ごとでその解決策の方法などが全く異なる場合も多く、これも面白くて興味深い経験です。そのため得るものも多く、やや大げさに言えば、“日々是日本勉強”といったところでしょうか。

いや、変わるべきではないのか!?

38年の歴史はあるものの、変わらないものもあります。その一つは校歌です（といっても昨今ではあまり表に出てきませんが）。歌詞は「1 激しき時のうつろいに 自治の光のさしざまも 応じ変わりてあるべきを われら集い

て究めんと 幕張浜にアカデミー 2 遠方^{ともしきらく}の朋亦^{とも}樂^{らく}の 寮に相よりともどもに 異なる行政体験を 語り交わして 終生の 友愛互助を誓うかな 3 各方面のとりどりの 発想 技法 情報を 学べば胸の血は燃ゆる われら進みて和をなさば はつらつの自治育つべし…」今改めて歌詞を読むと、時代や研修内容は変われども、現在においても校歌の理念には陰りが無いようにさえ感じます。時代外れと言われてしまうでしょうが、私的には密かに開講式に流したい曲No.1です。

変化より積み重ねだ!!

社会が急速に変化している現在において、今後、生成AIなどにより、学ぶことの意義や必要性に大きな変化が生じ、研修の在り方自体が大きく変化するかもしれません。ただし、デジタルのような機械化は進んでも、人と人との出会いといったアナログ的行動の重要性などは変わらないのではないのでしょうか。当アカデミーは、シンボルマークに示す3つの輪が“市・町・村”を示しているように地域のつばのような場でもあるためか、人の出会いの重要性を感じる研修生のコメントは非常に多いのが現実です。また、多くの人が不規則に集まるためか、新たな気づきであるセレンディピティを生み出すメリットもあるかもしれません（例：都道府県のうち、なぜ北海道だけが「道」を省いた言い方がないのか）。



このようにこれまで連綿と続く研修。研修とは「研究」と「修養」を組み合わせできたものという諸説があり、研修主催者としてその意味は非常に重いものがありますが、人の助けになると思えば、心の重荷も自然と忘れてしまいます。最後に少し古いですが福田元首相の言葉を紹介します。「記録を残すということは歴史を積み上げるということだ。その石垣は一つひとつがちゃんとした石じゃないと困る」。一教授としてこの言葉を肝に銘じて、また研修生にとっても、市町村アカデミーを通してより立派な石垣を築いていただける人になるように頑張っていきたいと思います。

〈アカデミア担当職員からひとこと〉

38年の歴史の中で、時代とともに研修内容は変化する一方、研修を通じた出会いや交流など、変わらない大切なものもありますね。